

こんなものでたよ

最近の発掘調査で出土した注目される遺物の紹介コーナーです。
山下居留地遺跡の 55 番館から出土した幕末～明治時代の煉瓦とラムネ瓶です。

名称 煉瓦
法量 長さ 23.7 cm 幅 11.2 cm 高さ 4.6 cm
解説 厚さがやや薄いことが特徴で、表面には「ヨコスカ製鉄所」と刻印が施されています。横須賀製鉄所は、1871 年（明治 4 年）に横須賀造船所となり、刻印も「ヨコスカ造船所」に代わることから 1871 年以前の煉瓦であると捉えられ、赤煉瓦の中でも最も古いものの一つであると言えます。



名称 煉瓦
法量 長さ 22.0 cm 幅 10.0 cm 高さ 6.0 cm
解説 表面が平滑に撫でられていることから、機械成型ではなく、明治前半のもので、煉瓦には桜印・分銅形・放射状などのマーク、漢字の“上”と「印などと、カタカナのイロハなどの刻印が組み合わされて施されています。



名称 ラムネ瓶
法量 口径 2.3 cm 高さ 24.0 cm 幅 7.3 cm
解説 ラムネ瓶は、緑色で、その細長くすぼまる形からキュウリ瓶とも呼ばれていたようです。炭酸の圧力に耐えられるような独特の形で、コルク栓の乾燥を防ぐために寝かせて置いていました。



行事案内

入門講座 ようこそ考古学

平成 21 年度 第 1 回テーマ 「古代の食」

日時 : 5月1日(金) 19:00～20:30(受付は 18:30 から)
場所 : 横浜市西公会堂1号会議室(横浜駅西口から徒歩 10 分 相鉄線「平沼橋駅」から徒歩 8 分)
講師 : 相良 英樹(かながわ考古学財団)
定員 : 108名(応募者が定員を超えた場合は先着順になります)
費用 : 無料
申し込み方法 : 往復はがき又はメールに行事名、氏名、住所、電話番号を明記して、かながわ考古学財団野庭出土品整理室へお申し込み下さい。(締め切り4月 24 日(金)必着)

発掘帖バックナンバーはホームページ (<http://www.kaf.or.jp>) からダウンロードできます。



お申し込み
お問い合わせ

(財) かながわ考古学財団 野庭出土品整理室
〒234-0056 横浜市港南区野庭町 1660 E-mail: fukyu@kaf.or.jp
TEL: 045-842-9888 (平日 8:30～17:15) FAX: 045-842-9904

考古学財団発掘帖

2009
1号

かながわ考古学財団情報誌 通巻8号

平成 21 年 3 月 25 日発行 年4回発行



横浜市 山下居留地遺跡 (やましたきよりゆうちいせき)

山下居留地遺跡は、横浜市中区の山下公園の近くに位置する遺跡です。発掘調査は、横浜山下町地区第一種市街地再開発事業(B1地区)に伴う調査として2007年度と2008年度に実施しました。遺跡は、1859年の横浜開港に伴って山下及び山手地区につくられた外国人居留地遺跡で、調査地点は旧 48 番館(イギリス商館)・54 番館(ドイツ商館)・55 番館(イギリス商館)等が該当します。

調査の結果、幕末～明治時代の煉瓦建物跡、礎石建物跡、地下室、切石造りの側溝を伴う道路、瓦質および常滑土管を使用した下水施設等の遺構や舶載陶磁器・国産陶磁器・ジェラルール瓦・洋酒瓶・外国製タイル・煉瓦等の遺物が多数発見されました。これらの遺構や遺物は横浜居留地の歴史を知るうえで大変貴重な発見といえます。

目次

- 発掘現場・出土品整理インフォメーション
- 考古学ミニコラム
- 海老名市:跡堀遺跡
- 逗子市:池子遺跡群
- 小田原市:下堀塚田町遺跡第 I 地点
- こんなものでたよ
- 行事案内
- 入門講座ようこそ考古学



(財) かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市中区中村町 3-191-1

TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162 URL <http://www.kaf.or.jp>

発掘現場・出土品整理 インフォメーション

ぼくは川尻中村遺跡(相模原市)のはちまき土偶はっちです。発掘調査や出土品整理中の遺跡の紹介をします



跡堀遺跡 (あとほりいせき)

(所在地)	海老名市	(時代)	弥生時代、古墳～奈良・平安時代、中・近世	(調査期間)	2007年11月～2008年12月
-------	------	------	----------------------	--------	-------------------

跡堀遺跡はJR相模線門沢橋駅から北西約600mに位置し、相模川から東側に400mほど離れた沖積地の自然堤防上に立地しています。第二東名高速道路建設に伴う発掘調査で、2004年～2006年に一次調査を行い、今回は二次調査として実施しました。近世から弥生時代まで幅広い時代にわたって遺構・遺物が発見されていますが、二次調査の中心の時代は近世と奈良・平安時代です。近世では土坑や溝状遺構などが発見されました。86号土坑として調査した井戸は深さ1m位の所に太い木で作られた頑丈な枠が設置してありました。奈良・平安時代では、4軒の竪穴住居跡と水場遺構などが発見されました。竪穴住居跡からは、土師器、灰釉陶器、緑釉陶器などが出土しました。水場遺構は河川によって出来たと見られる段丘面の崖下部分に石を敷き、木製の曲物が据えてありました。これらの遺構はともに10世紀代のものと考えられます。



井戸(2008年撮影)

池子遺跡群 (いけごいせきぐん)

(所在地)	逗子市	(時代)	縄文時代、古墳～奈良・平安時代、中世	(調査期間)	2008年8月～2009年1月
-------	-----	------	--------------------	--------	-----------------

池子遺跡群は逗子市米海軍池子住宅地区内にあります。南関東防衛局による小学校建設工事に先立ち実施しているもので、2006年より断続的に調査をしています。調査地点は1988～1994年にかけて行われた米軍住宅建設時の調査場所の北隣に位置します。

今回の調査では、近世、中世、奈良・平安時代、古墳時代、縄文時代の遺構や遺物が出土しています。このうち平安時代面では昔の川の跡と考えられる溝状遺構が多数検出されました。

また溝状遺構の他に杭列も出土しました。杭列は水の流れを調整するものと思われ、当地の土地利用が早い段階から始まっていたことが明らかになりました。溝からは土器の他、通常の遺跡では残らない木製品や木材、獣骨、植物、昆虫などが出土しており、当時の食料や自然環境を知る手がかりも提供してくれています。



溝状遺構(2008年撮影)

下堀塚田町遺跡第I地点 (しもほりつかだまちいせきだいいちてん)

(所在地)	小田原市	(時代)	中世	(調査期間)	2008年6月17日～8月15日
-------	------	------	----	--------	------------------

下堀塚田町遺跡は、小田原市下堀に所在する遺跡です。小田原土木事務所による都市計画道路穴部国府津線街路事業に伴い、2006年度から調査を継続しています。遺跡はJR東海道線鴨宮駅の北方1.5kmに位置し、足柄平野南部の酒匂川左岸に立地しています。周辺は水田が広がっていましたが、近年の開発により宅地化が著しく進んでいます。この遺跡の南側には、下堀方形居館とよばれる堀と土塁に囲まれた中世土豪である志村氏のお屋敷跡があります。居館の土塁の一部が残っており、堀は現在、用水路となっています。2006年度には居館の北側隣接地を調査し、用水路の部分は内堀にあたり、さらにその北側阿には外堀が巡っている事が明らかとなりました。また、西側では居館に関連する建物跡や井戸などを多数発見しています。今回の調査は、さらに西に離れた部分の調査でしたが、用水路と考えられる溝と多数の柱穴、井戸などを確認できました。これまでの調査成果をあわせると、居館の外堀や建物群の広がりなど土地利用の様子を知ることができ、これまで明らかでなかった下堀方形居館の様子が浮かび上がってきます。



溝の調査状況(2008年撮影)

考古学ミニコラム 第8回

考古学のホットな話題や資料の見方を取り上げたり、講座等で多く寄せられた質問に答えます。

陶磁器の修理法 焼継

江戸時代の庶民の「もったいない精神」の現われでしょうか、修理が施された碗や皿などが発掘調査でも数多く出土します。

割れた碗などをくっつけることを焼継といひます。当時この修理を生業とした『焼継師』と呼ばれる専門の職人がいました。焼継というのは、割れた陶磁器の割れ口に「白玉粉」と呼ばれる鉛ガラスを塗って、低温で焼いて接着させる技術です。これは簡便なおかつ安価な修理法として、江戸時代後期に流行し、それによって陶磁器の生産や流通に影響を与えるほどのものだったそうです。

焼継された器には底の裏の目立たない箇所に文字が書かれています。この文字は、焼継師が修理を終えて持ち主に返すための識別に印したと思われ、地名や人名などが書かれていることが多いようです。

写真は横浜市戸塚区の国道1号原宿交差点付近に所在する原宿町遺跡で発見された染付皿です。原宿の地名を表す「原」の字が書かれています。このような文字は、時には持ち主や職業などを知る手がかりとなることがあります。原宿町遺跡では「原鍛冶」と書かれた土瓶が見つかり、集落内に鍛冶屋さんがいたことが明らかになりました。



焼継された皿の底部